

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

日向市教育委員会

文部科学省は令和7年4月に、小学校6年生及び中学校3年生を対象に、「教科に関する学力調査(国語、算数・数学、理科)」と「児童生徒質問調査」及び「学校質問調査」を実施しました。

この調査は、国や各県及び市町村教育委員会、各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析した上で成果と課題を検証し、今後の教育指導の一層の充実や学習状況の改善・充実を図ることを目的としています。

以下、本年度の調査結果の概要をお知らせします。

1 調査内容

教科に関する学力調査 の出題内容 【対象教科】 国語、算数・数学 理科	○ 身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ○ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等
児童生徒質問調査	○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等
学校質問調査	○ 指導方法の取組や教育条件の整備状況等

2 本市における学力・学習状況調査の結果概要

(1)「教科に関する学力調査」の結果概要

- 小学校においては、国語科、算数科、理科それぞれの正答率において、県平均・全国平均とほぼ同等の結果を示した。
- 中学校においては、国語科、数学科、理科それぞれの正答率において、県平均・全国平均との差が見られた。

(2)児童生徒質問調査の結果(県・全国と比べて差が大きかった項目)

【小学校】

※ 単位は%

項 目		市	県	全国
①	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	61.8	51.5	47.7
②	国語の授業の内容はよく分かる。	51.0	37.8	53.9
③	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。	50.3	43.1	39.4
④	5年生までに受けた授業で、PC、タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日使用した。	30.4	57.7	46.7

【中学校】

項 目		市	県	全国
①	国語の授業が好きである。	63.8	54.4	57.9
②	理科の授業の内容がよく分かる。	55.8	68.8	71.4
③	理科の授業では、観察や実験をよく行っている。	59.4	79.3	85.8
※	1,2年生の時に受けた授業で、PC、タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日使用した。	58.2	62.3	53.2

(3)学校質問調査の結果(県・全国と比べて差が大きかった項目)

【小学校】

※ 単位は%

項 目		市	県	全国
①	合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、情報の取得、利用及び意思疎通への配慮を行った。	78.5	56.5	52.7
②	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や教科に関する共通の取組を行った。	78.6	69.4	65.3
③	児童は、熱意をもって勉強していると思う。	78.5	88.9	90.3
④	児童が自分で調べる場面では、PC・タブレットなどの ICT 機器を週3回以上使用させている。	42.9	70.2	72.9
⑤	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った。	71.4	84.0	89.0

【中学校】

項 目		市	県	全国
①	近視の予防の一環として、学校の休み時間や放課後などの時間に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近いところを見る作業に当たっての配慮事項について指導している。	62.5	39.2	40.5
②	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった。	100	89.9	89.0
③	生徒は、熱意をもって勉強していると思う。	50.0	74.6	86.5
④	生徒が自分で調べる場面では、PC・タブレットなどの ICT 機器を週3回以上使用させている。	50.0	66.9	71.2
⑤	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った。	25.0	49.3	83.4

3 本市の特徴

- 実施された3教科の調査において、小学校の平均正答数は県平均・全国平均とほぼ同じ結果であったが、中学校では県平均・全国平均に届かない結果であった。
- 学校質問調査において、「児童生徒は、熱意をもって勉強していると思う」という項目の回答率が低かった。学力は日々の学習の積み重ねの結果であり、児童生徒の学びに向かう態度に大きな課題があると考える。
- PC・タブレット等の活用について、県・全国平均との差が大きいことも課題である。
- 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人々に公表や説明している学校が少ないことが本調査結果から明らかになった。

4 現在及び今後の取組

- 全国学力・学習状況調査やみやざき小中学校学習状況調査等の問題を学校ごとに分析し、課題に対応した学力向上の取組を行っている。
学力調査等の結果及び対策については、全ての学校で保護者等に説明する必要がある。
- 令和6年度に「授業力向上プロジェクト」を立ち上げ、教師の授業力向上と児童生徒の学力向上を目指して中学校区単位の取組を進めている。令和8年度までに市内全ての小・中学校を推進校に指定し研究推進と授業公開を行うとともに、この取組を継続することによって、教師の授業力を高め児童生徒の学びに向かう力と学力の向上につなげていく。
- PC・タブレット等 ICT の活用については、本市主催の研修会を一層充実させ計画的に実施することにより、教職員のスキルを高めるとともに、授業での活用について積極的に働きかけをする。
- 情報端末の持ち帰りにより、タブレットドリルなどで授業を補完する学習を充実するとともに、児童生徒の学習習慣を確立する。